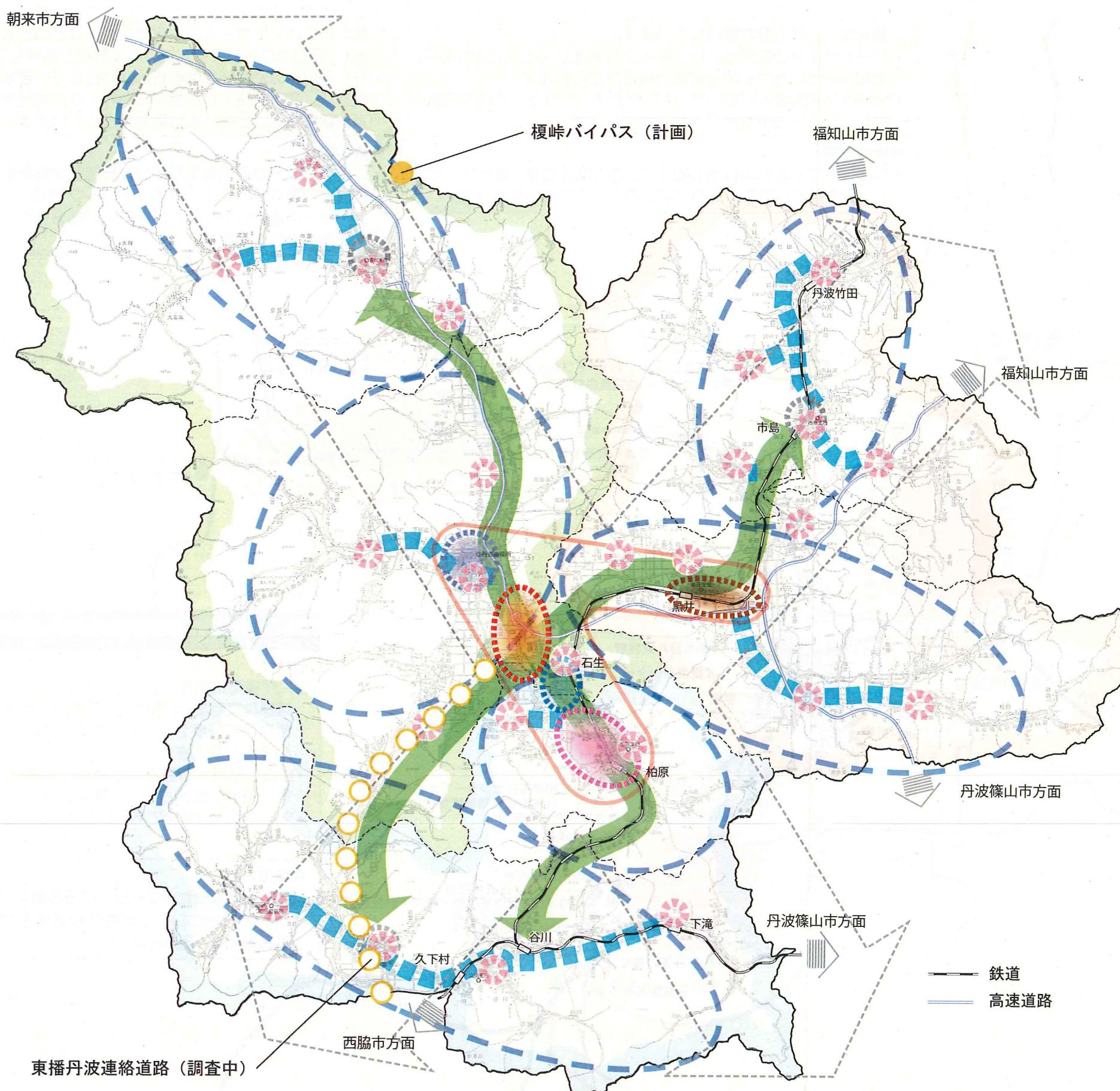


未来都市構造のイメージ図



凡 例		
○	中心部	行政・商業・医療福祉・文化芸術・観光などの全市的で高度な都市機能が集積、立地するエリア
□□□	区域	中心部以外のエリアで、地理的条件や地域のまとまりなどを踏まえた、都市機能の圈域となるエリア
○	日常生活圏	歴史的なつながりの強い既存の集落や地区のまとまりで、デマンド（予約）型乗合タクシーの運行が維持され、地域ごとのコンパクトで持続的な暮らしを形成する圏域
✿	市民協働拠点	市のまちづくりの根幹となる住民主体の自治活動の拠点として、多様な生活支援サービスが提供される拠点
△△△	広域連携軸	鉄道や高速バス、高速道路網及び主要国道からなる広域的な移動、連携、交流を図る交通軸
↔↔↔	地域連携軸	中心部内や中心部～区域の移動、連携、交流を支える公共交通による交通軸
■■■	生活連携軸	地域連携軸を補完するとともに、地域内での移動や連携、交流を支える交通軸
●●●	商業業務ゾーン	まちの賑わいと活力を創出する商業・業務サービス施設等が集積するゾーン
●●●	医療福祉ゾーン	県立丹波医療センターと丹波市健康センターミルネを核とした、医療福祉関連施設が集積するゾーン
●●●	行政ゾーン	防災など県と市の連携強化が求められる新たな行政課題等への対応が図れるよう公共的サービス機能の充実、強化を図るゾーン
●●●	文化芸術ゾーン	植野記念美術館や中央図書館など既存の施設の活用も含めて、文化芸術施設が集積するゾーン
●●●	交流連携ゾーン	市内への誘客促進に向けて、広域連携・観光振興機能の充実、強化を図るゾーン
●●●	生活関連サービス集積ゾーン	日常の生活に必要な行政窓口・生活サービス・医療・福祉機能や地域特性を活かした生業を支える機能等の充足を図るゾーン